

第10回

[日 時] 平成26年2月15日（土）18:30 -20:30

[テーマ] 「日本刀の芸術性と精神性」

[講 師] 講話 : 日本美術刀剣保存協会宮城県支部会長 鈴木 俊一 氏

日本美術刀剣保存協会宮城県支部副会長 後藤 三夫 氏

日本美術刀剣保存協会宮城県支部会員 太田 俊治 氏

試斬 : 剣道教士七段・居合道三段 菅井 吉秀 氏

居合 : 剣道錬士六段・居合道五段 今野 幸夫 氏

[使用したテキスト]

- ・『耕人』H25\_10.pdf （塾長から塾生へのメッセージ：第10号）

[概要]

18:30 開会の挨拶（木村塾長）

18:35 講話（日本美術刀剣保存協会宮城県支部会長 鈴木 俊一 氏）



講話では、日本刀の成り立ちやつくりについて詳しく教えていただきました。日本刀は、戦の道具としてつくられたものだけではなく、鑑賞するための美術的な価値のあるものも昔から存在していたということです。また、刀を見ればその時代背景などを知ることができ、歴史的にも興味深いものであることが分かりました。



塾生たちは実物の日本刀の前に立ち、一礼してから手に持って見学させていただきました。講師の先生方に詳しく説明していただきながら、真剣の鋭さや波紋の美しさを見て、何かを感じていたようです。

19:35 居合演武（剣道錬士六段・居合道五段 今野 幸夫 氏）



居合は、敵がいることを想定して刀を抜くものです。演武では、目に見えない相手を刀で斬ったり、突いたりする動作がありましたが、上品な立ち居振る舞いで、崇高な雰囲気を感じました。正座してい

る状態から始まり、刀を抜いて力強く振り下ろしたり、連続の技があったりと、とても迫力がありました。表情を一切変えず、相手を斬った後には間をとったり、静かにゆっくりと刀を鞘に納めたりするなど、その所作からは、スポーツとは異なる「勝っても相手の気持ちや立場を慮る」といった現代の日本人が忘れかけている武道の精神を垣間見ることができました。

19:45 試斬演武（剣道教士七段・居合道三段 菅井 吉秀 氏）



講師先生の話によると、簡単に斬っているように見えますが、初めてやる人は、ほとんど斬れないそうです。斬るためには、力だけではなくいくつかの技術が必要で、斬る方向に刃筋を立ててまっすぐに刀を振ることや、斬るときに刀を引くようにするなど、練習して技術を磨かなければなかなかできないことが分かりました。

19:50 質疑

質疑では、日本刀の手入れの仕方についての質問が出され、実際に手入れの仕方を見せていただきました。



「日本刀の芸術性と精神性」といっても、このテーマの中には様々な要素があり、今回の班別討議では、論点を絞るのが難しいのではないかと感じました。しかし、塾生たちは講話を聞き、居合と試斬の演武を見て感じたことを積極的に表現していました。

- ・「刀の構造を知るいい機会になった。」
- ・「見て楽しむ美術としての面を知れた。」
- ・「錆を見て楽しんだり、反りを見て名刀かどうか判断したりするなど、芸術的な楽しみ方がある。その一方で武器としての歴史の深さもある。」
- ・「はじめは刀は軽く振れると思っていたが、重かった。」
- ・「演武の際、先生の表情が真剣で、精神が高まっていると感じた。」
- ・「居合などの所作から刀の大切さがわかった。」
- ・「日本刀のつくり方について、芸術的になったのはなぜなのか興味がわいた。」
- ・「日本刀は私たちとかけはなれた存在ではなく、自分たちの何代か前の先祖は持っていたということから、意外にも近い存在であることに気付かされた。」

このように、塾生たちからは様々な意見や感想を聞くことができました。ともすると、最新の技術や情報ばかりを重要視しがちですが、今回、日本刀の芸術性と精神性に触れることによって、改めて日本の伝統的な文化や歴史に目を向けていこうとする意識が高まったのではないのでしょうか。

メニュー

ホーム

耕人塾の活動



令和2年度の活動



令和元年度の活動



平成30年度の活動



平成29年度の活動



平成28年度の活動



平成27年度の活動



平成26年度の活動



平成25年度の活動



第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

修了式

平成24年度の活動

報道・受賞